

ふりがな 氏名 中島 江梨香	なかしま えりか 都道府県 愛知県		
所属/肩書	中部大学分子性触媒研究センター研究員		
私のESD活動	研究者（環境工学）の立場から、国内外で活動する学者・専門家と共に研究会を発足し活動を行っている		
ESD活動を表すキーワード	環境	教育	幸福
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください） <p>私は環境工学が専門で、資源、材料、エネルギーを中心に工学から見た環境について研究を進めてきた。一例として、産学官の協力のもと、環境に優しい石油代替燃料の普及や海洋バイオマスを利用した CO₂ 回生システムと燃料開発などがある。現在は環境に優しいマイクロチューブリアクターを用いた有機合成プロセスの開発を行っている。これまでの研究活動の特徴は、海外経験、機械工学で博士号を取得した女性であるという特徴を生かし、産学官連携だけではなく、学問分野、国境を越えた境界領域での研究を行ってきたことである。</p> <p>数年前から、省エネという言葉と一緒に持続性という言葉をよく耳にするようになり、環境工学から見て持続性とはどのようなものか、それは学問として成り立つかという疑問を出発点として、中部大学の教授を中心に、持続性について議論する研究会を発足した。研究会の中で、地球上に存在する還元炭素（化石エネルギー資源）の枯渇年数は 600 万年に近く、人間活動が活発になっても枯渇の心配はないと考えられ、資源・エネルギーの分野では持続性を議論する必要はないという意見もあったが、持続的な発展には人々の幸福が必要不可欠であり、その幸福は、文化や人種により異なり、そこが結論付ける上で困難なポイントであった。昨年度この活動報告書として本『持続性再考論』を作成した。また、7 学部 30 学科を有する総合大学である中部大学では、専門性や学部の枠を超えたさまざまなESD活動を開催しており、「中部大学ESDシンポジウム」や、7 学部の学生たちが活動や研究を発表する「中部大学ESD研究・活動発表会」などが開催され、私はこれらの会に積極的に参加し議論を行った。</p>			
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していくと考えていますか？ <p>私は現在、中部大学分子性触媒研究センターの山本尚教授のもとで、環境に優しいマイクロフローリアクターを用いた有機合成プロセスの開発を行っている。この研究の目的は、有機化学と工学の知見を融合し、危険性物質を簡単かつ安全に取扱い（人的損失の削減）、投入エネルギー・資源、廃棄物の削減と同時に科学技術の発展を目指す事である。ESDにおいては、価値観の転換が重要だが、私は、学者、研究者の活躍から解るように科学技術の進歩による課題解決の可能性を過小評価してはいけないと考える。中部大学では、文理融合によるESDの大学院の設立構想があり、今後益々活発な ESD 活動が期待される。私自身は、現在の研究活動に、ESD的視点（批判的・総合的思考）を加える事により、自身の研究活動だけでなく、これまでの国境、境界領域を超えた活動での経験を生かし、研究者、教育者としてESD活動を発展に寄与したいと考えている。</p>			